

「つくろう・伸ばそう・鹿沼の文化」を合言葉に今年も鹿沼市民文化祭の始まりを告げる「第41回鹿沼市民文化祭開幕式」が9月28日の土曜日、市民文化センター小ホールにて開催されました。



佐藤鹿沼市長

「つくろう・伸ばそう・鹿沼の文化」を合言葉に今年も鹿沼市民文化祭の始まりを告げる「第41回鹿沼市民文化祭開幕式」が9月28日の土曜日、市民文化センター小ホールにて開催されました。



長をはじめ、多くの来賓の皆様に出席をいただき、厳粛に行われました。まず、市長の主催者あいさつに続き、松井正一県議会議員、木村剛考商工会議所会頭にご祝辞をいただき、会場全体で「みんな鹿沼の文化を盛り上げよう」との気持ちを共有することができました。

今年は、式典後のアトラクションに、「バンドフェスティバル2019」と題して、市内外で活動するアマチュアバンド8組によるバンド競演を行いました。これは、昨年度から鹿沼市民文化センター内に音楽スタジオが設置されて、多くのアマチュアバンドから空き時間がないほど利用されており、利用者の日頃の成果の発表の場として設定されたものです。出場者8組の次から次へと繰り出されるパフォーマンスに、会場も熱気に包まれ、観客と一体となった盛り上がりを見せました。出場者からは、「市民文化祭の一つの催しとしてバ

開会前には、今年もハワイエにおいて、茶道部会の皆さんによる呈茶席が設けられ、多くの参加者がおいしいお茶とお菓子をいただきながら、有意義なひと時を過ごすことができました。

〈報告事務局 外山拓也

ンドフェスティバルの実施を検討していこう」との声も出て、今後の開催への高まりを感じさせています。



木村商工会議所会頭



松井県議会議員

アトラクションにアマチュアバンドの競演!

第41回鹿沼市民文化祭開幕式リポート

かぬま文化

No.166

つくるう 伸ばそう 鹿沼の文化

発行人 鹿沼市文化協会
発行責任者 会長 山菅 昭八
編集委員会 委員長 鈴木 貢
印刷所 晃南印刷(株)



◆ ◆ ◆ ◆ ◆

筆遊会 …… 2
文化祭 洋画・彫塑部会 …… 2
書道連盟 …… 3
本の紹介「あつたらもん」 …… 3

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

視察研修旅行リポート …… 4
告知板 …… 4
編集後記 …… 4

目次

人は美を求めてやまない

筆遊会 代表 井上 瑞空

「人は美を求めてやまない 人は書の古典を残した 古典を学び 追求し 脱却し 創作して 芸術に昇華するのだ」

【春洋会 宣言より】

筆遊会では、鹿沼市にゆかりのある相沢春洋先生の春洋会に属し書道を行っております。

手本として春洋先生の

条幅・かな・楷書千字文。臨書(古典を真似ること)として、かなは、高野切

第一種。漢字は虞世南の孔子廟堂碑・欧陽詢の九成宮醴泉銘・褚遂良の雁塔聖教序・顔真卿の多宝塔碑・王羲之の蘭亭叙に力を入れて書道をしております。こどものころからの覚えてしまっている固定観念の文字の姿と、古典の文字の姿とを実際に書

いて比べて、良い姿の文字へと近づき、腕の技術と特に目の力を上げていきます。

手本については、師植野春林先生はおっしゃっていました。「手本を真似るだけでは、僕を超えることが出来ない。自分なりに創意工夫して書きなさい。」

北押原コミュニティセンターにて、毎月第1・3木曜日の午後2時から4時まで筆で遊び、時には世間話に盛り上がり楽しい時間を過ごしております。

ともに描く！

鹿沼市民文化祭 洋画・彫塑部会 川津 正己

本部会の洋画彫塑はカテゴリーが広く、油彩、水彩、アクリル、版画等の平面と木彫、石コウ、金属による立体、独特な材質(植物の実や樹脂等)の作品が出品されます。

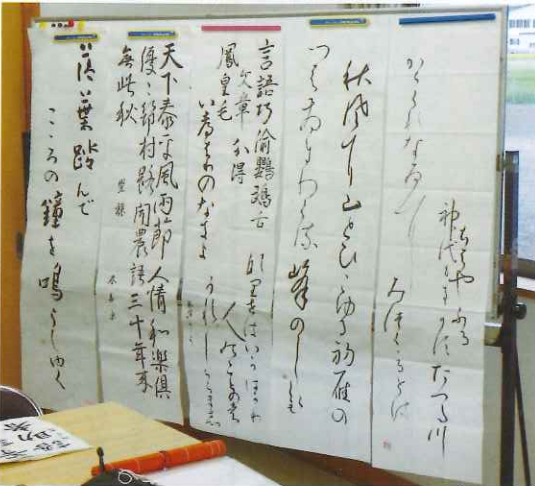
運営のモットーは「ともに描く」です。中学生も初心者の方もベテランの方も皆同じ壁面に作品を展示します。その空間の中で互いに意見交換ができる場をつくれれば良いなど毎回頭をひねっています。

この会に出品して受賞したら、ぜひ後に続く人たちのため一層向上した作品を観せてあげて欲しい、そう願っています。毎年努力した作品を継続して出品していれば後輩にあたる人たちも同じ努力をしていきます。そうすることで素晴らしい文化が育つのではないのでしょうか。

前部長であった坂本和氏の作品を観るたび「もつとがんばらなくては」と友

人と語り合ったものです。そういった思いを持てる展覧会にしたいと考えています。

また、初心者という言葉でくくりましたが、ちょっと自信がないけど出品しようかという方も大歓迎です。まずはやってみないとスタートは切れません。自分の作品が展示された会場で、他の人の作品を観て得るものは多いはずです。それは長く制作している方も同様です。絵を描き始めたばかりの方の作品の中にキラキラしたものを感ずることもあります。ともすれば美術は個人作業です。しかしともに出品し「とも」になることで連帯意識をもったり、新たな出会いが生まれることもあるのです。そういった環境の変化が生活の中に「張り」をつくる要因にもなっていくのだと思います。人生を楽しむために制作してみませんか。



書を通してのめぐりあい

鹿沼市書道連盟 副会長 板橋 和子

書の魅力のひとつは、「元氣、やる気、勇気」。一つの書作品で立ち直りのきっかけになる事もあります。書の広さ、奥深さに改めて感動した市民文化祭書道展が無事終了しました。参加協力及び大勢の皆様のご高覧、

鹿沼市書道連盟は、鹿沼の指導者を中心に各社中や個人会員で組織されています。その中の私の主宰する書道教室「和」の会員も、今まさに、切

磋琢磨し、書初展をめざして、自己研鑽中です。そしてその後、3月には、当会、鹿沼市書道連盟への出品となります。兼目悠久会長のもと、第19回鹿沼市書道連盟展での、書の出会いを楽しみにしております。ぜひ皆様ご高覧のほど、よろしくお願い致します。



「第18回 鹿沼市書道連盟会員展」



あつたらもん

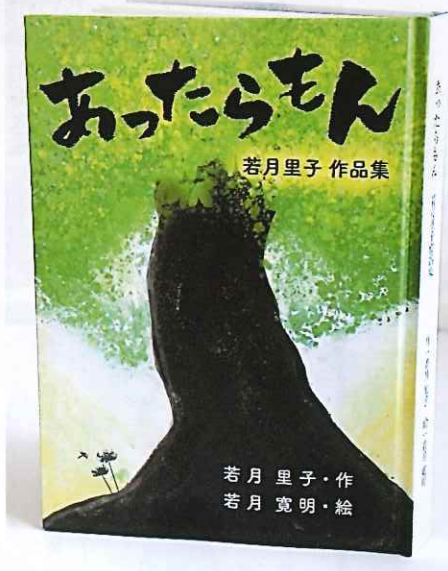
若月 里子・作
若月 寛明・絵

鹿沼市文化協会、「わらべっこ」会員で、永年にわたり児童文学の活動を推進してきました若月里子さんが、「あつたらもん」を上梓しました。

「あつたらもん」とは、本文の中で、「昔はね、ものが少なかったから、何でも工夫して使うことを考えたんだよ。今は『もったいない』ってことばを使うけど、この辺の昔の人は、『あつたらもん』って言ったのさ」

昔から言い伝わって来たことは、生活の中に溶け込んでいます。あんなこと、こんなこと色々思い出させてくれることでしよう。

鹿沼の暮らしの中で語り継がれた言葉と規範が児童に分かり易く書かれていきます。



【問合せ先】 鹿沼市文化協会事務局

電話 0289-178-4308

編集委員 鈴木 貢

視察研修旅行リポート 諸橋近代美術館・斎藤清美術館を訪ねて

さわやかに晴れ上がった9月27日、視察研修の参加者32名を乗せたバスは、福島県会津を目指して一路東北道を北に向かった。文化協会の視察旅行は常に天候に恵まれる。会員の日ごろの行いがよほど良いことの証しである。

一行は、会津若松市の大正浪漫渋川問屋でニシンをメインとする昼食を取った後、柳津町の「斎藤清美術館」へと向かう。斎藤清という日本現代版画家として有名な

が、当日は斎藤が50歳を超えてから始めたという「斎藤清の墨画展」を開催中だった。

斎藤が「墨」で描いたのは、日本の山河にとどまらず、世界を旅したと

きの現地の人々、風景、さらには石仏、ヌードとバラエティに富む。特に、同じモチーフ・構図で描いた「墨画」と「版画」

の同時展示は、その質感や空気感の違いを見比べることが出来てとても興味深い。ぜひもう一度訪れてみたい美術館だ。

参加者は、これも研修旅行の楽しみの一つである、各施設に設置されたみやげ物店での買い物も十分に満喫し、帰りの途に就いた。

(事務局 外山拓也)

磐越自動車道の猪苗代磐梯山高原インターチェンジを下りてバスは磐梯山中腹の「諸橋近代美術館」へ。ヨーロッパの森の中の城を思わせるつくりの建物で、中の作品に期待が高まる。ここは、シュールレアリスムの巨匠サルバドル・ダリの作品を中心とした美術館として名高い。当日は、企画展として「四次元を探しに」から現代へ」と題するダリ作品と現代アート作家10人によるコラボレーション展を開催中で、現代美術とダリ作品が織りなす催しに、私たちも新たな美の



諸橋近代美術館



斎藤清美術館

告知板

第2回いちごいちえ鹿沼川柳大会
全国誌上大会

投句受付…令和2年1月20日必着
投句先…〒322-0069 栃木県鹿沼市坂田山2-1170
鹿沼市民文化センター内
鹿沼市文化協会「いちごいちえ鹿沼川柳係」

川柳大会

日…令和2年2月19日(水) 午前9時30分～午後4時
場…鹿沼市民文化センター 多目的ギャラリー

◆問い合わせ

「かぬま川柳会」松本とまと ☎(0289) 62-5700
FAX(0289) 62-5797

第19回鹿沼市書道連盟展

期…令和2年3月20日(金)～22日(日)
会…鹿沼市民文化センター 多目的ギャラリー

編集後記

本号では市民文化祭開幕式と視察研修旅行の報告のほか、ギャラリー部門の筆遊会、書道連盟と文化祭、洋画・彫塑部会の日ごろの活動ぶりを取り上げました。

さて先日、当委員会に初めて出席して、新聞記者の駆け出し時代を思い出しました。原稿校正の確認事項を読んだからです。読み手に理解しやすい文章を書くのが大原則ですので、体験を紹介します。先達はまず、新人に「やさしく分かりやすく書け」と、物書きの鉄則を教えます。その上でいつ(WHEN)どこで(WHERE)だれが(WHO)なにを(WHAT)なぜ(WHY)どのように(HOW)と、OW)の六要素(5W1H)がニュースの原則と叩き込みます。

また、記事が読者に対して持つ意味・値打ち(WORTH)の検証は大事で、書き手に明確な視点で対象を綿密に分析し、判断材料として提供する工夫を求めます。結論を先に出す「逆三角形」文章の大切さも強調します。

筆者は新米です。初心に立ち返って編集に取り組みたいと考えています。

◇編集委員会◇

鈴木 貢 小林 守
板橋 和子 若月 里子
黒川 榮三 寺崎 昌子